

<2026年大学日本画展開催のお知らせ>

UNPEL GALLERY（アンペルギャラリー）は、運営母体であるあいおいニッセイ同和損保のメセナ活動として、全国の大学・美術大学と連携し日本画を学ぶ学生・卒業生に発表の場を提供しております。この企画は、日本画を志す若手作家の育成とともに、全国の美術教育・研究活動を支援し、日本画の伝統と日本文化の「美意識」「精神性」「技法」を未来へ受け継ぐことを目指すものです。

2026年から10校が参加、若手日本画作家がそれぞれの作品を発信するロングラン企画（1月～8月）です。今回は1月31日（土）から金沢美術工芸大学日本画専攻修了生、川崎千尋・坂井亜也子・矢野宏実3名による展覧会を開催いたします。

■展覧会概要

タイトル	『make my day』 ～第40大学日本画展 <金沢美術工芸大学日本画専攻修了生展>～
会期	2026年1月31日(土)～2月15日(日) 11:00～19:00（月曜定休・最終日17:00まで）【入場無料】
会場	UNPEL GALLERY 東京都中央区日本橋 3-1-6 あいおいニッセイ同和損保八重洲ビル 1F
参加作家	川崎千尋（かわさきちひろ）・坂井亜也子（さかいあやこ）・矢野宏実（やのひろみ）
展覧会内容	本展は金沢美術工芸大学大学院で日本画を修了したメンバーによる展示です。 2025年の春に学び舎を巣立ち、新たな道を歩みはじめた3人。川崎千尋は古典的な題材に自身の感覚を重ね合わせた作品を描いています。坂井亜也子は身近に感じる愛おしさを題材とし、対象への想いを乗せる微細な色彩や質感を追求しています。矢野宏実は水のある風景をテーマに、金属箔の持つ輝きを生かして、その場所の持つ空気感や光を感じ取れるような作品を制作しています。 展覧会タイトルの「make my day」には、誰かの何気ない行動やちょっとした出来事が自分の1日を特別なものにしてくれる、という意味があります。日々を送る中で出会うさまざまな出来事、接する人たち、目に映る風景や植物が、私たちの暮らしに寄り添いさまざまな感情を与えてくれます。日常から切り取った感動を、三者三様の視点で見つめました。 私たちの作品が、ご覧になった方々にとって「make my day」となれば幸いです。 それぞれ150号～100号を2点ずつ、10号～4号の小作品は合わせて10点程度展示する予定です。
主催	金沢美術工芸大学大学 美術科 日本画専攻
企画	UNPEL GALLERY
協賛	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

<ご連絡・お問い合わせ先>

ギャラリーオフィス 11:00～19:00 月曜定休（担当/井上・渡邊）

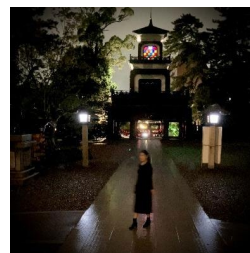
E-mail / tsubaki@unpel.gallery <https://unpel.gallery/>

TEL / 03-3548-7780 FAX / 03-3548-7781 * お問い合わせは E-mail にてお願いします

川崎 千尋 (かわさき ちひろ Kawasaki Chihiro)

京都府出身

- 2021 年 第 6 回石本正日本画大賞展 入選
2022 年 京都花鳥館賞 2021 優秀賞
「グループ展(exist)」(Gallery Take two)出品
第 7 回石本正日本画大賞展 奨励賞
2023 年 京都花鳥館賞 2022 優秀賞
「グループ展(exist)」(同時代ギャラリー)出品
2024 年 第 23 回福知山市佐藤太清賞公募美術展 入選
第 10 期 六花ファイル 選出
2025 年 K A N A B I クリエイティブ賞 2024・学長賞(買上作品)

**【コメント】**

古人は湿りを含んだ空気の中に、目には見えない気配のゆらめきを感じ、それらを掬いあげて和歌や物語に託してきた。そうした古典的な題材に、自分が日々を送る中で浮かび上がる感情を重ね合わせて日本画を制作している。和紙や岩絵具、墨、箔といった画材と対話し、それぞれの素材が持っている表情を大切にしながら、うたうような気持ちで描いていきたい。

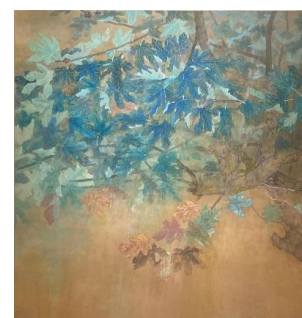
「露ながら折りてかざさむ菊の花」
2025 年制作
1818 x 2273mm
白麻紙、岩絵具、水干絵具、墨、
銀箔、アルミ箔

坂井 亜也子 (さかい あやこ Sakai Ayako)

石川県出身

- 2023 年 金沢美術工芸大学 美術科日本画専攻 卒業
2025 年 金沢美術工芸大学大学院修士課程 修了

- 2021 年 第 5 回新日春展 入選
2022 年 第 77 回石川県現代美術展 佳作 (～2025)
2024 年 個展『日々は、やさしく』 Gallery SOUVIN

**【コメント】**

日々暮らしていく中で過ぎていく、何気ない景色や出来事、季節の草花や木々。それらを眺めていると、過去の記憶や経験と重なり、言葉にできない「ちいさな情動」が生まれる。その情動を軸として、和紙や絹に染料や岩絵具を用いて制作をしている。草木の染料で染まった支持体の上に、極薄い絵の具を何層にも塗り重ねることによってできる、微細な色彩や質感に着目している。最近は暮らしの中でよく目に触れる、野菜や果物、ふと出会う虫達をモチーフとし、季節の移り変わりと共に変化する自身の心持ちや、時間の経過を肌身で感じながら制作をしている。

「余香」
2025 年制作
1900 x 1800 mm
雲肌和紙、染料、墨、天然顔料

矢野 宏実(やの ひろみ Yano Hiromi)

香川県出身

2023 年 金沢美術工芸大学 卒業

2025 年 金沢美術工芸大学大学院 修了

2021 年 第 6 回石本正日本画大賞展 入選

2023 年 第 10 回日本美術展覧会 入選

2024 年 Seed 山種美術館日本画アワード 2024 入選

第 42 回上野の森美術館大賞展 入選

よんでん文化振興財団 2024 年度奨学生

2025 年 よんでん文化振興財団奨学生

第 11 回ふるさと美術展 出展

【コメント】

水のある場所をテーマに、その場所の持つ空気感や光を感じ取れるような風景画を制作しています。水は様々な形に変化し、または鏡のように景色を反射するモチーフです。同じ場所であってもその日の天候や気温によって異なる表情を見せる様子は見飽きることなく、何時間でもそこに滞在して眺めていられます。絶えず水や風や生き物の音が聞こえてくるような、臨場感のこもった作品を制作できるよう常に心がけています。金属箔と岩絵具がもつ輝きを通して、皆さんに水の魅力をお伝えできれば幸いです。



「心地よい日和」

2025 年制作

1620 × 2273 mm

麻布、水干絵具、雲母、墨、岩絵具、
銀箔、銅箔、錫箔